

こんにちは。筑波大学の磯田です。写真をご覧ください。みなさん、すごくいい顔している。これは、3年前に派遣された皆さんです。もう帰国されています。文部科学省による派遣前研修は、今年で6年目になります。以前には、国の制度ではない形で、皆さんが派遣されていたので、この研修もありませんでした。私どもの教育開発国際協力研究センターは、派遣現職教育サポートっていいです。みなさんを背後で支えて下さる方、沢山いるのですが、みなさん同様に変わっていきます。定点でみなさんのこれからを末永く見守っていくのが私たちの役割です。

ご覧ください。この写真、私の勲章です。何がっていうとですね、小学校の一年生のような笑顔なんです。夢いっぱい。夢いっぱい、やってやるぞ、これからだという、挑戦する楽しさが、伝わってくる。そんないい写真に自分もいっしょに映っています。私がこの写真をどういう時使うかっていうと、管理職の先生方や他の学校の先生方に、こういった先生方が今派遣されてらっしゃるんですよ、厳しい国に派遣され、何をなさっているか皆さんご存知ですかって、そんな話をするときを使うんです。管理職の先生方に。

今日半日と明日1日までは、皆さんは現職教員でいらっしゃる。派遣現職教員ならでは、ということで、文部科学省側では皆さんにいろいろ期待していらっしゃるし、JICAの皆さんも、皆さんに期待していらっしゃいます。それはすでにお話を伺ったのでわかると思いますが、その思いをもう一度伝えたい。そして、それから、わが子や後輩、帰ってきて生徒のため、私からのお願いの話もさせていただきたいです。先ほどの土屋さんのビデオの中に「〇〇を通して××を」という目標設定のお話がありました。みなさんであればこそ、わかる話です。なにせ、皆さんが普段、指導案に書く目標そのものではないですか。そのような現職教員の先生方であればこそという、私たちの役割や私たちの心の準備、それから、皆さんが何を愉しむのか、その愉しみ、挑戦内容の改善の重要性、こんな話をしたいと思います。

まず、文部科学省は、国際協力イニシアシブの活動の中で、青年海外教育隊員、派遣現職教員のサポートということをしています。活動の内容は、JICA 青年海外協力隊の「現職教員特別参加制度」により途上国に派遣される教員に対し、教育上の観点からのサポートする、現職教員の派遣実績が多い職種を対象に、教育制度面や現地での指導法に関する情報提供等をサポートする。そして、派遣前。今ですね。隊員の活動に役立つ教材、指導書等の教育モデル、その他資料等の作成・上記教材等の紹介・隊員の活動準備に対する教育上の助言等・隊員との連絡体制の構築をする。これを、今日と明日、行います。さらに、派遣中ですね。隊員の現地での活動に対する教育上の助言等・各実施者が作成した教材等の有効性の確認・改善する。先ほど、開発教育の話がありました。ご存知のとおり、国際理解教育という言葉も、文中に使われています。で、国際理解教育のサポートをする、ということが、この中に書かれています。で、私どもの役割、筑波大学教育開発国際協力研究センターの役割はですね、その全般調整となります。明日、課題代表者として、小学校では田中統治先生、養護・障害児教育では前川久男先生、家庭科では佐々井啓先生、環境

教育では村松隆先生、幼児教育では浜野隆先生、ハンズオン素材では服部勝憲先生。さらに、国際教育協力イニシアティブから、食農環境教育として三原真智人先生、学校保健として大澤清二先生が、派遣現職教員のサポート話をされることになっています。

私どもの役割ですが、ちょうどここに載っています。皆さん、ぜひライブラリというデータベースに入っていて、そのライブラリを利用して、皆さんの活動が自主的にできる、そのための情報が提供されています。それから、メーリングリストもごさいます。また、上から読みますと、派遣前研修、派遣中の活動支援、青年海外協力隊サポートのポータルサイトもごさいます。あとからまた紹介します。それから、これ大事なことです。明日お願いしますし、今日その大事さについても説明しますが、ライブラリへの派遣経験の登録についてもお願いしています。それから、帰国時オリエンテーション、帰国報告会もしています。

JICA 青年海外協力隊事務局は、ここから先、皆さんの活動を現地で直接サポートします。私どもは、JOCV 事務局と協力し教育委員会に皆さんの活動を紹介し、文部科学省のもとで日本側からサポートします。私たちが大切にしていること、それは、派遣現職教員の皆さんならではの活動を、いかに支援するかということです。青年海外協力隊員の活動は、日本のことはまずは忘れて現地のために活動する、まずはそこですが、派遣教育ならではの、ということです。そこには学卒で日本での教員経験のない皆さんもたくさん派遣されている、その中で皆さんが何を期待されているか。

話している私は、そのならではのとは何か、答えをもっていないんです。なぜかと言うと、皆さんが行った先それぞれの違った派遣先で、派遣現職教員ならではの、答えを見つけてほしいからです。私どもも、そのならではのを応援します。私どもは、そのならではのを生かす場、伝える場を設けて応援しています。イニシアティブには、様々なサポート活動があります。その活動からは、皆さんに共同しようと様々な提案をなげかけます。現職教育に限らず、国際教育の場をいかに提供するか、ということも考えています。

先ほどから皆さん大切なお話を、いろいろなことを学んでらっしゃると思うんですが、実は私、不満、ちょっと残念に思いました。皆さんメモを取ってらっしゃらない。みなさん、まだ実感がない。その話の大切さがまだわからないだと思います。次に印象強い話があると、前の話は忘れられてしまう。ですから、メモをしてくださるといいなあと思います。すでに伺ったお話の中で、今聞いても分からない話、たくさんあるんです。後から、あ、だからこんな話をしてたんだってわかります。この一日半は、皆さんにはきっかけです。そのきっかけを大切にしてくださいといいなあと思います。

これから研修が続きますが、派遣前研修と派遣前訓練、協力隊と文部科学省では中身も違う、派遣現職教員に対する特別な研修がこの一日半です。文部科学省側は、日本の教育界を背景とし、派遣現職教員としての皆さんの心と内容に語りかけます。協力隊では、語学・身体・心を鍛えます。私たちは、他の協力隊員の方と皆さんとは違うというお話をし、皆さんの日本での教育経験、教育内容を話題にします。すでに皆さんにあるものを土台に、

派遣されて、現地でさらに活躍してほしいと願っています。ひとつ大切なのは、職場での助け合い経験ですね。そして授業研究とも言われる、Plan Do See です。日本の先生方は、皆さん、そのプロフェッショナルです。

私は数学教育が専門なのですが、少しだけ現地の情報をお見せします。これは、ホンジュラスの事前調査の結果です。横軸が、教師としての経験年数、縦軸が、小学校4～5年まで算数テストの結果。このグラフのこの先生、教師経験38年、得点10点。どのくらいの学力かという、数が勘定できる範囲です。で、この先生は、先生になってから38年間、給料もらって、ずっとこれで教えてきた。複式学級だったりします。この先生が指導をして、子どもは育つのか、想像がつかます。皆さんが派遣される国も類似な状況にあります。いいですか？ もちろん、この先生も、子どもとともに生き、ともに楽しむ、子どもを育てているには相違ないと思います。そんな先生方に皆さんは何をすればよいのか、それって皆さんが普段教室で子供に対して挑んでいることとあまり変わりません。

先ほど、土橋さんから「何の何を、何を通して何を伝える」という話がありました。これは私たちが教員研修で必ず教える、指導目標の書き方の基本です。何の何を、という部分に、今、開発教育の中で、状況のこと・・・そのあたりが加わったわけです。

先生方が、共に育み、生きる楽しさを感じるわけですが、共感するだけではなく、その中でお互いを分かり合い、さらにその先を計画する。そんな技術を、日本の先生方は、培ってらっしゃる。であればこそ、これまで派遣された派遣現職教員の皆さんの評価が高いのです。

4月4日に朝日新聞の記事が出ていました。私のことが取り上げて頂いたので、紹介させていただきますが、まず、キャサリン・ルイズ先生のインタビューです。日本で授業研究を勉強して下さった米国の先生で、日本語が上手です。アメリカでは、教師同士が授業を見ることが無く、良い教材を共有する方法が無い。授業研究は、その意識を育てる。世界の宝だ、と言ってらっしゃいました。で、これは、自分のことで恐縮ですが、私は日本だけのものではなくなってきた、と言いました。なぜかという、これはもう、過去20,30年間、青年海外協力隊として、皆さんや皆さんの先輩が派遣されて、その国に関わってきたからです。ですのでこの記事は皆さんの先輩の活躍を紹介した記事でもあるのです。

話は変わりますが3月に、数学教育国際委員会100周年記念国際会議がローマでありました。そんな話、私に関係ないという顔、今、皆さんなさいました。凄く関係あるのです。30年前に、ヨーロッパ以外では初めて、日本が委員長になりました。それがなぜか大切か、私は知らなかったのですが、30年前には、ヨーロッパを飛び越えて日本まで、プレゼンスのある国はなかったのです。国際組織の中で。日本以外は、欧米以外はすべての国が途上国、日本だけが輝ける国だったのです。そして、その席で、シンガポールとフィリピンの方から、日本に対するたいへんな感謝の言葉を頂きました。特にフィリピンの方は、直接皆さんに関わるお話をされています。開発途上国では、他の国の支援が欠かせない。フィリピンでは、日本が支援してくれた。だから今の発展がある、そういう話がありました。

その会の出席者は、日本人はわずか 2 人でしたが、私は、そうだったのかと思いました。私が、今何を伝えたいか、わかりますか。

今、皆さんが派遣されて、先方が暖かく迎えてくださるのは、先人が培ってくれた土壌があるからです。掘り下げて言うならば、JICA が皆さんのこれまでの信用があるからです。さらに申し上げれば、皆さんを支援している県の先生や学校の先生方がいて、派遣することを認めてくださっている先生や文部科学省の仕組みがあるからです。そういった枠組みの中でやっているのだというのを、実感しました。

話がそれましたが、皆さんの夢を実現する方法です。お話しているのは、今まで皆さんがなさってきた授業の経験が役立つ、子ども中心の授業や学校での共同的な姿勢も、現地で活動する際に役立つというものです。もちろん、違う部分もたくさんあります。それが、先ほどのお話にもあった、現地の人々の立場になって考えられるか、ということにかかわります。指導力を向上させるには、給与 UP など皆さんに対応できないこともございます。

今まで学んできた教育についての知識、内容についての知識、それをどう生かしていったらいいかという、実践で鍛える。であればこそ、皆さんが今、ある。これもひとつの事例なのですが、海外では、授業を互いにみる経験が無いのです。なぜかと言うと、それが評価になってしまうから。日本でもそういう時期があったのですよ。この写真はチリで日本の先生が通訳を通して授業を公開しているのですが、これを見ている現地の先生方は、600 人くらいいて、その中には授業をみたことのない方がたくさんいらっしゃる。私が親になって、教室に行きびっくりしたんですが、自分の子どもだけを見る。親ってこのように授業を見るんだと思いました。驚きです。

先生方同士が互いに授業をみにいく、それは、その先生との対話を楽しみにして授業をみにいくわけです。いずれにしても、皆さんがこれからいく国では、授業を互いにみたり議論したりする習慣がない、自分の子どもはどういう風に教室で過ごしているかさえも見ることのない、そういった国です。であればこそ、実現した際の喜びも大きい。

日本の教育経験のある皆さんでなければ出来ないことが、いくつかあります。チャレンジすること、心の交流をすることなどは、誰にも大切なことです。他の皆さんも持っています。で、皆さんは、派遣されれば、現職教員が一人で、他の隊員が沢山。そういう環境におかれます。そうすると皆さんが、「日本ではこうだよ」、「こんなことができるといいな」と話して他の隊員とします。でも、日本の仲間とさえ共同は容易ではない。まして、現地は違います。派遣された現職教員の方が「受け入れられるようになりました」というんです。私、この言葉最初分かりませんでした。現地で現地の人に我々が受け入れてもらえるようになった、ということじゃないです。現地の考え方を受け入れられるようになった、ってことです。そんな、ぜんぜん違う人のモデルになるのは容易ではないのです。ぜんぜん違う人の中で、どんな対応をしていったらいいか。先ほどの Plan Do See を考えるわけです。現地の人々の気持ちが分かる、相手の気持ちになって考える、もちろん、相手の立場を尊重するのは勿論ですけど、その中でどういう風に改善していけばいいのか。どうした

ら子どもの目はより輝き、伸びていけるかってことを考える、皆さんが教室でしていることを、今度は広く社会で求められる。相手の立場にたって考えられる。日本でそのような経験のある先生方がそうおっしゃる。それほど容易に受け入れられないのです。

先ほど、何を通して何を伝えるというのが、日本の教育の基本だと言いましたが、現地では違いますよ。現地では、教育目標と言えば、ピタゴラスの定理なら、ただ、ピタゴラスの定理としか書いてないんです。それしか書いてないので、ピタゴラスの定理を教えるなら、どうやってもいい。最低限出来ることは、数を倍にしてたす計算をする、算数です。日本では、そういうことは、教える内容の一部なんです。例えば、ピタゴラスの定理の証明を通して、証明と言うものが命題がいつでも成り立つことを示す方法であることを教える、とかですね。日本の目標の文章は単語ではなく長いんですよ。何を通して何を教える、って。

それは、先ほどの開発教育の中でも話題になったことで、日本の先生方はいつも計画していたことです。であればこそ、教材開発、下調べ、準備をなさる。みなさん、だから今準備をしている。

で、準備の際に役立つ web サイトの紹介をさせていただきますね。青年海外協力隊 現職教員特別研究のサポートと言うことで、私たちのこういうサイトがございます。非常にいいサイトですので、ご覧ください。で、その中に、活動マップというのがございます。いくと、皆さんの仕事は、アップされます。太平洋の中にぽつんと島があるんですよ。この島で、こういった先生が派遣されていて、こんな活動をしています、そんな皆さんの活躍ぶりが全部出てきます。そんな皆さんに、情報が手に入れば、ということです。明日、研修会をやります。皆さんが、自分で発言することも出来ます。貴重な言葉もたくさんあります。皆さんが、そこに行って見てください。どこにあるかは、先ほどのサイトに行けば分かります。で、メーリングリストを通して、情報を共有することも行っています。教科書何ですかという相談があったら、皆さんすぐ答えてくださった、そういったものです。

それから、最終的に役に立つサイトは、「国際協カイニシアティブ」ライブラリ、という文部科学省のサイトに入っています。これは、私たちも手伝いさせてもらっている協力体制です。先輩の活動も、学習指導要領解説も、訳してあります。日本の皆さんが米国の教育課程を途上国に紹介する、こんなおかしなことはないでしょう。皆さんに使っていただくために訳してあるんです。これは、現地の指導案。皆さんの訳したものを送っていただければ、あとの人が役立ちます。例えば、指導案の目標、どう訳せばいいんですか。あの言葉、この言葉と言うのが分かるんですよ。これはベトナム語ですけども。さらなる他国語もありますよ。

データもたくさんあります。海外、現地からもヒットします。現地語のデータも登録できますので、なぜメキシコからこんなにヒットしているのかなあと調べてたら、かつてパナマに派遣された岐阜の牛尾先生が作った人気のサイトで、メキシコから見てました。すごいでしょ。このデータ、年間のヒット数がベスト 25 です。半分は協力隊の皆さんが登

録したデータです。皆さんが派遣された後、大切な情報、教材を登録してくださると、ヒットします。登録は、私たちが協力します。

最後に、私たちのセンターから、皆さんに役立つ情報を寄せているので、一つずつ紹介します。

研究員の鎌田です。研修用教材、日本の教育制度と教育実践を紹介します。パワーポイントで編集してあり、日本の教育について全般の紹介をするのに、日本語版と英語版を用意しました。図、表、写真を、可能な限り多く含んでいます。9の分野に分けて紹介していますので、海外で日本の教育について聞かれたときに使っていただけたらと思います。

次に、特別支援教育に関する情報です。

研究員の野澤です。1枚目はインドネシアで行った国際共同事業連合会の様子を収録したものです。2,3枚目が筑波大附属聴覚特別支援学校と視覚特別支援学校の教育です。4枚目が統合保育指導、5枚目が特別支援学級、6枚目が養護学校における児童研究になっています。ここまでが動画になっています。そして、7,8枚目が同じものの日本語版と英語版で、全国の特別支援学校の児童生徒の芸術作品、書道が収録されたものになっています。これを用途別に分けました。お役に立てば、うれしいです。

最後に、磯田から。算数・数学教育関連コンテンツの冊子を御覧ください。必要な情報は、すべてwebサイトに載っています。是非、ご利用ください。日本の有名なもの、世界に通用するものは全部載っています。

最後になりますが、私なりの伝えなかったこと、それはつなぐこと。それが私たちの役割です。いろいろなつなぎがあるんです。皆さんはそれぞれご自身で活躍するだけの力をお持ちです。不要に思うかもしれませんが、ですが、その活躍を紹介したり、認められたりするようにする、まずそのようなつなぎがあります。また、内容の改善。途上国でも、一番新しい情報がほしいんです。勿論、現状、環境に応じてなんです。日本で大切なことは何かを知っていて、現地で工夫の仕方を考える皆さんだからこそ出来ることがあります。大事ですが、皆さん、カバンに入れてもってけないんです。でも、今は、インターネットで繋がっています。ほとんどの派遣先とは、インターネットでつながります。皆さんが情報を得るお手伝いが二つ目のつなぎなんです。そして、これも大事なんです。派遣中に発信して、財産を蓄えてほしい。それをぜひ、つないでほしい。次の人に周りの人がいるから、今の自分がいるんです。これほど大切なことはないんです。みなさんが作った財産を、みなさん自身で次につなげるようにしてほしい。その仕組みを私たちは用意しています。

いよいよ最後になります。心の準備のお話も、内容の準備のお話もしました。楽なことばかりではないというお話もしましたが、それがあらかじめわかっていたら、その障害も予想通りの愉しみなチャレンジの対象になります。みなさんがチャレンジという心根で、派遣現職教員ならではの活躍をしてくださることを期待しています。

ありがとうございました。